

令和2年度 第2回市立小諸図書館協議会 議事録

日時 令和2年6月30日(木) 午後3時00分～午後4時10分

場所 市民交流センター 学習室

出席者

〈 委員 〉

土屋政紀会長 森山いさ子副会長 田中豊委員 蓬田美智子委員 丸山穰委員
大池幸子委員

〈 小諸市教育委員会 〉

小林秀夫教育長 内堀浩宣教育次長 土屋雅志文化財・生涯学習課長 鈴木一枝文化
財・生涯学習課係長 土屋千浩文化財・生涯学習課主事

〈 市立小諸図書館 〉

土屋裕一館長 運営一部業務受託者特定非営利活動法人本途人舎業務責任者大林晃美
欠席者

市川強委員

1. 開会

2. あいさつ

教育長あいさつ

昨年度から本途人舎のみなさんが業務委託を引き受けて図書館を運営している。委託業務は新雪の山に登るようなもの。先の見えない中の運営はたいへんなこともたくさんあると思う。幸い、それまでの運営の中で見据えていた「図書館」の芯を着実に、しっかりと歩んでもらい創り上げてもらっていると思っている。もちろん課題もある。「市民のための知の館」として、どう運営していくか、今後さらに期待もしているなかで、委員のみなさんのお知恵をいただき、お力をいただき、運営していただきたい。

3. 自己紹介

土屋会長あいさつ

小諸市自治基本条例では16歳以上の住民に住民投票権があるなか、ここにはその若い人はいないが、その人たちの分までしっかり議論していきたい。小諸市の図書館は財団法人からの市民で作りに上げてきた歴史がある。コンパクトシティ構想の中で、図書館に求められる役割が変わってきた。「知識の拠点」というより、まちの中のハブ、集積地としての役割が求められている。「図書館」というより「ライブラリィ」。よりよい図書館運営のために役立ちたい。個人としては、図書館友の会として、まち全体が図書館とか、店先にひと箱の本が置かれているとか、やってみたいと思っている。

森山副会長あいさつ

軽井沢の公民館図書室が町立図書館に変わるとき、いろいろな準備に職員として関わっていた。その頃の思いがよみがえってきた。小諸の図書館は昔、古書のおいのような図書館だったが、とてもすばらしい全国的にも誇れる図書館になった。協議委員として、どのようなことをしていくのか、わくわくしている。

4. 協議事項（議事進行 土屋会長）

（1）相互貸借資送料の利用者負担について（鈴木係長） 【資料1】

●送料300円ということは、条例の中には明記されていないが、いいのか。送料というのはどういうことか。

事務局：実際にかかる郵便料金。何件分かをまとめて依頼しているので平均で割った実費。

●変動する場合もあるということか。

事務局：郵送料の値上げ等で事情が変われば、変わることもある。

（2）現在及び今後の図書館対応について（大林） 【資料2】

（3）令和元年度来館者数等の実績報告について（大林） 【資料3】

●「市民一人あたりの図書貸出し冊数」が旧館の頃より倍近い数字になったということだが、全国的にみてどうなのか。

●貸出数とか利用者数などの数字では、今回のコロナ感染予防対策中などのような状況の中で統計を出していくのは難しいと思う。図書館が市民に貢献していることを表すような指標のようなものはないか。

●学校図書館との連携はどのようになっているのか。

事務局：「市民一人あたりの図書貸出冊数」の全国的な数字は今わからないが、県内だと、例えば塩尻のえんぱ一くは10冊に近い数字だった。少しずつ利用が増えたとはいえ、まだまだだと思う。新図書館に移行するまえに、分類ごとの割合等の分析をして、文学だけではなく、使ってもらえる図書館になるように意図的に本を購入してきた経緯がある。

また、貸出数以外での指標ということであるが、私たちも何かいい指標はないかと考えている。指標ということではないが、毎年利用者アンケートをとっており、総合的な満足度ではいつも80%以上の高い評価をいただいている。自由記述でも、毎年本当にたくさんコメントをいただいている。

学校図書館との連携では、新図書館が開館する前から、学校図書館とは連携している。図書館システムもつながっており、支援しやすい仕組みになっている。司書会等には図書館職員も一緒に参加させていただいているので、実際の支援につなげていきたい。

事務局：先日図書館は、来館者100万人を達成した。この図書館の理念は「みんなの役に立つ」だが、本当にいろいろな方に利用いただいている。業務委託という形での運営

の評価については、この協議会でも協議いただき、検討したいと思っている。

●友の会の活動の中で、図書館だけで考えるのではなく、動物園から懐古園、駅周辺から商店街、そして図書館と、すべてをひっくるめて「まちづくり」ということで取り組んでいけたらよいと思う。

●司書としての感覚だと、この図書館の本の並びには戸惑いがある。わかりにくい。思いがけない本を見つけられることもあるが、もう少しわかりやすく、探しやすくしてほしい。そのような声は他に聞かれないか？

事務局：そのような声もちろん聞くし、逆に初めてきた方でも「とてもわかりやすい」と言われることもある。この並びも絶対ではなく、検証しながらより使いやすくしていきたいと思っている。

●市外の方が思いのほか多いように思う。広報等で自慢してもいいのではないか。

事務局：確かに増えてきていると思う。休館日を木曜日にしたことで、近隣の図書館は月曜休館が多いため、月曜日に利用できるようになったと来館される方もいる。それぞれが上手に複数の図書館を使い分けているようだ。

(4) 報告事項

1) NPO 法人本途人舎への一部業務委託までの経過について (土屋課長) 【資料4】

2) 来館者100万人達成について (土屋館長)

おかげさまで、6月22日11時30分頃、市立小諸図書館は来館者100万人を達成した。100万人目の方は御代田在住の女性で、999,999人目の方とご夫婦であった。1000,001人目の方は小諸市のしののめに入所している女性。当日は簡易にすませ、改めて100万人達成のセレモニーは、開館5周年の11月28日に行う予定。

3) 5周年記念講演会について (大林)

年度当初に予定していた5周年記念講演会は、講師が東京在住の方で、この新型コロナウイルス感染症予防対策の中で、早々に中止を決定した。この内容のものは次年度に繰り越したいと思っている。今年度は、5年目という節目の年に当たるので、改めて「図書館」を市民のみなさんと考える会ができたらと企画を練り直しているところである。100万人のセレモニーと併せて、記念になるような会にしたい。

4. その他

・事務局より

次回の協議会の予定

日時 10月頃

場所 市立小諸図書館

内容 運営評価方法と今後の方向について (案)

都合の悪い日を知らせてほしい。日程を調整する。

・協議会委員より

●学校でなぜ「野岸」という名前なのか、ということが話題になったとき、学校内でどんなに調べてもわからなかった。学校図書館の先生が公立の図書館に聞いてみよう、と聞いてくださった。そうしたら、あんなに調べてわからなかったことが、すぐ返答がきた。これからも学校で調べて分からないことはお願いしたい。児童用の郷土資料も増やしていただいたい。

市民がいかに関書館を利用するか、を考えるのもひとつだが、先ほどでた意見のように、図書館以外のことも「地域」としていっしょに考えていくことも大切だと思った。

●昨年やった「パブリックコメント」の件も図書館のイベントだから図書委員に、というのではなくていいと思う。生徒会とか、小諸市は未来義塾の取り組みをしているので、そこでいっしょに取り組んでもらうとかができたらいいのではないかな。

●図書館には昭和30年代の小諸市のアルバムがある。その当時の職員が、まちの様子を記録し残そうという姿勢があったということ。郷土博物館も閉まってしまった今、まちの歴史、記録を残していくシステムを創りたいと思っている。市民みんなが学芸員みたいな、小諸市の歴史を残して記録していく人材の育成も含めて取り組んでもらえたらと思う。

市の事業として、文化財・生涯学習課で事業化してもらえるといいと思う。

事務局：複合交流センターが出来ると、この一帯が人の集積地となる。それを見据えて連携していかないとと思っている。

6. 閉会